

## 地域共生演習

[戻る](#)

<b>科目名</b>	地域共生演習			<b>コード</b>	B110400			
<b>授業形態</b>	<b>履修形態</b>	<b>単位数</b>	<b>年次</b>	<b>開講期</b>				
演習	選択	2	1年	前期				
<b>担当者名</b>	安溪 遊地, 辻田昌次, 坂本 俊彦, 加登田 恵子, 人見 英里, 他6名							
<b>授業概要</b>								
山口県は、豊かな自然環境の中に古い歴史をもつ中小都市や集落が点在する地域である。その地域に人々が暮らし続ける意味は何か。大学のサテライトキャンパスでの地域の方々との出会いに引き続き、地域の活性化のために努力しておられる地域リーダーの方々を先生として、実際に現地におもむいて地域の魅力を発見してゆく。お客さんとしてでなく、共に汗を流すメンバーとして、地域の方々との共同作業を重視する。受講生は、地域のあゆみと現在の実情や今後の課題を、自らの新鮮な感性で理解し、地域が秘めている魅力を地域課題の解決に生かす提案をおこなう。みんなが希望をもって生き生きと暮らせるやまぐちをつくるため、地域と大学が協同して取り組む新しい授業。								
<b>到達目標</b>				<b>成績評価の方法と基準</b>				
1) 地域との接し方の基本的な礼儀をわかまえる。2) 山口県の特徴を地元住民を通して具体的に学ぶ。3) 地域の活力を高める活動に参加して、地域住民との交流を経験する。4) 自らが得た経験をわかりやすく発信できる。				学内授業4回プラス集中講義(4月22日日曜日)と、各自週末を利用して小グループに別れて1泊2日あるいは1日×2回の実習を2回(延べ4日間)。評価は実習日誌とレポートと口頭発表でおこなう。				
<b>学習目標</b>			<b>評価項目と割合</b>					
<b>具体的学習目標</b>	<b>配点比率</b>	<b>出席及び授業態度</b>	<b>小テスト</b>	<b>自主学習態度</b>	<b>レポート</b>	<b>プレゼンテーション</b>	<b>学期末試験</b>	<b>その他</b>
(1) 地域との接し方の基本的な礼儀をわかまえる	20	10	0	10	0	0	0	0
(2) 山口県の特徴を地元住民を通して具体的に学ぶ	10	0	0	10	0	0	0	0
(3) 地域住民との交流を通して地域の活力を高める	50	30	0	20	0	0	0	0
(4) 自らが得た経験をわかりやすく発信できる	20	0	0	0	10	10	0	0
<b>授業の項目と内容</b>			<b>自主学習課題</b>					
<b>(1) 4/17)オリエンテーションと事前指導(大学内)</b>								
地域で行動するにあたって、心得ておくべき基本的な礼儀などについて、副担当教員3人の経験を交えた講義を受ける。			受講生が上限(45人を予定)を越える場合、授業中に「地域共生演習に期待するもの」というタイトルで、受講希望の理由を200字程度で書いて提出する。					
<b>(2) 4/22)地域の方による地域の課題の説明(山口市徳地の県立大サテライトキャンパス)</b>								
受け入れ予定団体のみなさんに参加していただき、それぞれの地域(山口市宮野・山口市徳地・阿武町など)での切実な問題と、その解決へ向けた努力を話していただく。			旧引谷(ひくたに)小学校を改装したサテライトキャンパス内を探検し、有効な使い方のアイデアを、友人と話しあってみる(昼休みの課題)。					
<b>(3) 4/22)ワークショップ1(サテライトキャンパス)</b>								
昼食後、地域の方々とともに、1時間程度、サテライトキャンパス内外の環境整備活動を実施する。			草刈り鎌、ノコギリ、竹製の熊手(がんぜき)などを使うことに慣れるとともに、地元の方の仕事ぶりに学ぶ、作業班ごとに学生リーダー・サプリーダーを決める。					
<b>(4) 4/22)ワークショップ2(サテライトキャンパス)</b>								
分科会形式で、地域のリーダーのテーブルをまわって、それぞれの地域での取り組みについて質疑応答を通して詳しく学び、ゲーム方式で各自が実習希望先を2か所選ぶ。			納得がいくまで、担当教員、地元の講師、ボランティアで参加して下さっている地元の方々に、その地域ではどんな活動ができるのか、尋ねてみよう。					
<b>(5) 地域Aにおける地域共生活動の実践1</b>								
各個人の選択した実習先に教員とともにグループで出向き、地域共生体験を行う。受け入れのスケジュールは、4月上旬までに掲示と <a href="http://ankei.jp">http://ankei.jp</a> で知らせる。			意識して「見る」ことの練習。携帯などで写真を撮らせてもらうときのマナーを考えよう。活動中に「見たこと」を実習ノートに書く。写真もノートに貼り付けよう。					
<b>(6) 地域Aにおける地域共生活動の実践2</b>								

各個人の選択した実習先にグループで出向き、地域共生体験を行う。ひとりひとりが、きちんと自己紹介ができるようになる。	「耳を傾ける」練習。活動中に聴いた、地元の方の印象に残る言葉を実習ノートに書く。方言をどのように表記すべきか考える。
<b>(7) 地域Aにおける地域共生活動の実践3</b>	
各個人の選択した実習先にグループで出向き、地域共生体験を行う。地元の方と気軽に話しができるようになる。	活動中に考えたこと・疑問に思ったこと・尋ねてみてわかったこと等をまとめて、あなたの意見として実習ノートに書く。
<b>(8) 地域Aにおける地域共生活動の実践4</b>	
各個人の選択した実習先にグループで出向き、地域共生体験を行う。受け入れてくださった皆さんへの感謝の気持ちを率直に伝えることができるようになる。	終了した日の翌日までに、地域Aのお世話になった方々へのお礼状を葉書1枚でいいから必ず書く(分担して書くもよい)。
<b>(9) 6/5/7月以降の受け入れ団体とのマッチング(大学内、未調整者と変更希望者)</b>	
地域Aでの実習を経験してから地域Bを選ぶことにしていた学生や、どうしても予定を変更したいと考える学生向けのマッチングの再調整。	受け入れ団体によっては、活動内容の相談を授業時間に大学内でもよおされる場合がある。それも実習への参加として、実習日誌に書き込んでよい。
<b>(10) 6/25)中間発表会(大学内)</b>	
地域Bにおける実習先が未定あるいは、特別の理由によって変更を希望する学生との調整および、地域Aの経験を交換しあう中間発表会	発表会ではプレゼンテーションの技術(わかりやすい話し方、写真や図の使用、1ページのプリントにまとめる方法や、パワーポイント等のソフトの使用)について学ぶ。
<b>(11) 地域Bにおける地域共生活動の実践1</b>	
原則として地域Aとは異なる受け入れ先にグループで出向き、地域共生体験を行う(受け入れ先との話しあいによっては、1回目と同じ地域でもよいものとする)。	活動中に見たこと・聞いたこと・考えたことを、前回にならってより深めた形でなるべく詳しく実習ノートに書く
<b>(12) 地域Bにおける地域共生活動の実践2</b>	
各個人の選択した実習先にグループで出向き、地域共生体験を行う。	活動報告の個人レポート作成の構想を練る。
<b>(13) 地域Bにおける地域共生活動の実践3</b>	
各個人の選択した実習先にグループで出向き、地域共生体験を行う。	地域の方への質問をして、レポート作成の材料を集める。
<b>(14) 地域Bにおける地域共生活動の実践4</b>	
各個人の選択した実習先にグループで出向き、地域共生体験を行う。	終了した日の翌日までに、分担して地域Bでお世話になった方々へのお礼状を書き、プレゼンテーションの準備を開始する。
<b>(15) 7/31)最終報告会</b>	
グループごとに、それぞれの地域での経験をともに、地域の課題とその解決策への提案を柱とした発表をし、地域の方々コメントしていただく。	最終レポート(1200字程度+写真)の下書きを指導教員にメールで送付し、添削を受けて最終レポートを作成しメールで提出する。特色あるものはウェブ上で公開する。
<b>テキスト、参考書、教材</b>	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
参考書 安溪遊地編、2006『続やまぐちは日本一』弦書房 教材 <a href="http://ankei.jp">http://ankei.jp</a> (「地域共生」を検索) <a href="http://tokudj.jp">http://tokudj.jp</a> (徳地づくり達人塾)	学外での授業は土日に実施。学内での授業は火曜日5,6時限。必修科目のコンピュータリテラシーⅠa受講者は、7,8時限のⅠbと交換してもらえば受講が可能。4/22の講義で大学のバスによって移動するため、45人程度を上限として受講制限を実施する。受講希望者が多い場合は、小レポートによって意欲の高い人を優先して受講を認める。実習にあたっては、未加入の人はボランティア保険(年間150円)に加入すること。留学生の受講を奨励する。
<b>受講生へのメッセージ</b>	
竹を次々倒したり、本物の家を建てたり.....。地域の方々と共に汗を流し智恵を絞り、夜を語り明かしたりする経験を通して、きっと大好きな「第二の故郷」ができます!	